

～ハツとしたとき出るエッセイ～



坊守のひとりごと



愛知県安城市和泉町中本郷41

2021年1月1日号

「コロナ禍での報恩講」

秋のお彼岸が終わってすぐ、12月の報恩講に向けての「コロナウイルス感染症対策委員会」が立ち上がりました。同朋婦人会、恵信尼会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、正信会、廿日会、みどりの会、根育ての会、お灸を楽しむ会、仏華の会、合唱団のそれぞれ三役さん約30名が、秋季彼岸会の反省を元にして来たるべき報恩講をいかに迎えるかを考える意見交換会でした。

秋の彼岸会は法要と法話は従来通り行いましたが、コロナ対応としてお齋はお弁当形式にして持ち帰って頂きました。その他にもスタッフの手洗い&梅酢でうがい、マスク着用の徹底、調理室と作業場アルコール消毒、参詣者を含めた全員の無接触体温計での検温、健康チェックシート記入などを実施しました。しかし、やむなく止めてしまった恒例のお抹茶接待だけはどうしても心残りでした。

対策委員会で出た意見をまとめ、コロナ対策をマニュアル化しました。そして10月と11月の各法話会では、実際に現場で実施してみて問題点を洗い出しました。

報恩講は一年で最も重たい仏事です。コロナ禍で行事縮小の動きが広がっていましたが、戦国時代に我々の先達は衣の下に鎧を着けて報恩講を勤めたと聞いています。細心の注意と準備を持って、真宗寺院の伝統と誇りを守りたいと決意していました。

報恩講の役割分担に「コロナチェック係」が出来ました。本堂前テントで参詣者のチェック&検温済シール貼付（法要前50分～法話開始10分後まで）、チェックシート記入（氏名・電話番号・体温・マスク・体調・手の消毒）、法話後すべての机・イス・背もたれトレーを除菌シートで拭き上げることを徹底しました。

本堂係は、事前の準備として参詣席（前列机と背もたれテーブル）にお菓子袋を配り、窓を開けて換気し、ディフューザー（加湿器）をセット。勤行本を貸し出す際に除菌シートも添付。法話の休憩中に窓を開けて換気。

念願のお抹茶接待も復活しました。抹茶茶碗は5分間煮沸消毒して、和菓子はビニールを取らずに懐紙に乗せ、使い捨て黒文字をつけました。一座終了する毎にテーブルとイスを除菌シートで全て拭き上げました。

お料理を作る同朋婦人会さんは、特に細心の注意を払って下さいました。手指消毒まで徹底し、同朋会館全体を調理場として三密を避け、各部細部のアルコール消毒には念には念を入れました。

お寺のスタッフ全員が一丸となり、本当に一生懸命、報恩講実施に取り組んで下さいました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。そして、本龍寺にご来寺の方には、今後とも安心してご参詣頂けますよう、ご報告申し上げる次第です。

